２０２４年度　授業計画（シラバス）　　日本コンピュータ専門学校

学科名	学年	授業のタイトル（科目名）
工業専門課程　情報処理システム科	1	気象予報Ⅰ
授業の種類	**授業担当者**	**実務経験**
☑ 講義　☑ 演習　☐ 実習	中西　秀夫	◉ 有　○ 無

[実務経験歴]

民間の気象会社で予報業務を23年担当。
企業向けの防災セミナーを担当。

単位数（授業の回数）	時間数☒	配当時期	必修・選択
2　単位　（　30　回　）	60　時間	○ 前期　○ 後期　◉ 通年	○ 必修　◉ 選択

[授業の目的・ねらい]

①気象現象の原理や天気予報ができるまでの行程を理解する。

[授業全体の内容の概要]

①低気圧や高気圧が発生する仕組みについて
②数値予報の仕組みと限界について

[授業終了時の達成課題(到達目標)]

天気予報の内容を正しく理解し、簡単な予報を組み立てられるようになる。

[準備学習の具体的な内容]

毎授業ごとに復習の有無の確認を行い、講義・実習を進める。授業終了時には、講義内容の確認と次回の授業内容を説明し、復習・予習ができるようにする。また、長期休みの時は、課題を実施する。

[使用テキスト]	[単位認定の方法及び評価の基準]
使用テキスト プリント教材(日本ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ専門学校) **参考文献** 必要に応じて授業の中で紹介する。	定期試験と出席日数の両方が次の規定に達した場合に認定する。 ・試験の点数は60点以上を合格点とする。 ・全出席日数の4分の3以上の出席が必要。 評価基準 定期試験80%、平常点（出席、講義の参加度）20%とする。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

1回	気圧
2回	風の観測
3回	高気圧と気団
4回	前線
5回	日本の天気

6回	大気圏の構造
7回	大気の組成
8回	まとめと振り返り
9回	大気中の水蒸気
10回	断熱変化
11回	大気の安定・不安定
12回	雲と霧
13回	降水過程
14回	風の種類
15回	まとめと振り返り
16回	大気の大循環
17回	温帯低気圧
18回	熱帯低気圧
19回	エルニーニョとラニーニャ
20回	気候の変動
21回	波浪と高潮
22回	まとめと振り返り
23回	数値予報①
24回	数値予報②
25回	ガイダンス
26回	天気予報の精度評価
27回	地上天気図の見方
28回	高層天気図の見方
29回	予報演習
30回	まとめと振り返り